

午後 I 試験

問 1

問 1 では、食品商社を例にとり、経営層や業務部門の要請を踏まえた、会計システムの再構築について出題した。全体として、題意はよく理解されていたようであった。

設問 1 では、(1)の正答率が高かった。(2)は、渡された情報で行うべき処理について、売上と売掛金への仕訳計上処理が必要であることに対し、どちらか一方のみの解答が散見された。仕訳は分からなくとも、本問での出荷という行為が、会計上は売上と売掛金という二面性をもつことを理解してほしい。

設問 2 では、資金管理について問うたが、(1)は入金予定を出金予定と取り違えた解答が散見された。(2)、(3)は正答率が高かった。

設問 3 は、正答率が高かった。連結子会社の決算情報を合算するとき、各連結子会社の勘定科目が A 社と統一されていないということが読み取れば解答できる設問であった。

設問 4 は、正答率が低かった。内部統制実施基準の、IT に係る業務処理統制について、入力情報の完全性、正確性、正当性を確保することの中で、入力情報の完全性の確保について問うたが、取引の入力と会計システムへの連携において漏れ及び重複がないことが入力情報の完全性である、ということを読み取ってほしかった。

システムアーキテクトとして、経営層や業務部門の要請や課題を踏まえ、関連したシステムとの連携も十分意識した要件定義、設計が行えるよう心掛けてほしい。

問 2

問 2 では、Web による写真プリント注文システムを例にとり、ソフトウェアやシステムサービスの汎用化の検討について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 2 では、開発方針として汎用化の基本的な留意点を問うたが、“各ショップの創意工夫を出すため”など、開発方針とは異なる視点の解答があった。汎用化の観点で問題文から読み取ってほしい。

設問 3(1)では、メールでの実装について、“メールを素早く受信できるから”との解答が多かったが、業務上素早く知りたいのは注文であることを意識してほしい。設問 3(2)では、追加する機能が必要な理由を問うたが、“写真データ削除のタイミングを知るため”など、問題文に記載していないシステム上の都合を想像して解答したと思われる誤った解答が多かった。

システムアーキテクトには、多数の企業への展開を念頭において、ソフトウェアや、システムサービスの汎用化を検討できる能力が期待されている。要望や前提条件、性能や処理タイミングなどを総合的に考慮して的確に設計できるように心掛けてほしい。

問 3

問 3 では、セミナー管理システムを例にとり、利用者の要件に基づいたシステムの設計について出題した。

設問 1(1)、(2)は、E-R 図を用いてエンティティタイプの設計に関して出題したが、正答率は低かった。特に、リレーションシップについては、システムの要件をしっかりと理解しなければ正答を導くことができないことを十分に理解してほしい。

設問 2 は、システム要件に書かれた情報を、属性名を用いて記述する問題であった。システム要件に書かれた情報は五つあり、設問の記述の中に、その中の二つが書かれているので、残りの三つの情報を属性名を用いてどう表すかを考えれば解答できる設問であったが、正答率は低かった。属性名だけ記述してある解答も多く、設問の理解が十分でなかったものと思われる。

設問 3(1)は、利用者の追加要件から出た項目を、どのエンティティタイプに追加すべきかを問う問題であった。その情報は、どの時点で何に対して付与されるものかを理解すれば容易に解けたはずだが、属性名を見て思い込みで解答したと思われる誤った解答が多く見られた。

システムアーキテクトとして、利用者の要望をシステム要件としてまとめ、それを正確に設計していくことができるよう心掛けてほしい。

問 4

問 4 では、電気自動車専用カーシェアリング運営システムの開発を例にとり、機能及び要件の定義や、機能仕様の検討及び策定について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 2(2)は、“充電所要時間”との解答が散見されたが、充電スタンドからサーバへ送信されるデータとしては不適切である。問題文を十分理解してもらいたい。

設問 4(1)は、“異常発生をトリガにして記録開始する”との解答が散見された。問題文に異常発生時の“前後”の記録を残す必要があると記述しているので、要件を正確に理解し、実現できる方法を求められていることを理解してほしい。

システムアーキテクトとして、開発対象システムの機能及び要件を正しく把握し、機能仕様にまとめる力を身に付けてほしい。